

社団法人 ジャパンケネルクラブ 理事長・永村 武美
Takemi NAGAMURA, President,
Japan Kennel Club



○永村座長

イギリスは世界で自分がトップランナーだという意識がありますから、我々はジャパンケネルクラブでありますけれども、イギリスは、The KCと、みずからのケネルクラブをそう呼んでおります。ちょうど2年前の1月にBBC放送が、犬のスタンダードの一部に非常に動物虐待的なものがあると非難しました。その典型がブルドックだといっています。ブルドックのほとんどが自然分娩で子を産むことができないので、帝王切開を余儀なくされている。これはまさしく動物虐待ではないかという意味で批判をいたしました。

御案内の方おられるかもしれませんが、毎年3月にクラフト展というドッグショー、これは世界で最大のドッグショーでありますけれども、必ずゲストにはイギリスの王室からいずれかの王子様が来られるぐらいの非常に伝統的な、格調の高いドッグショーであります。しかし、このBBCの放送を契機にロイヤルファミリーはクラフト展から撤退をすると意思表示したようです。いろんなペットフードメーカーもスポンサーリングから撤退をするなど、KCは大変厳しい仕打ちを受けました。

それから、KCもこれを大変重要なことだと受けとめました。少なくとも動物虐待的なスタンダードを持っている犬種については、きちんと修正をして、より健全な犬をつくるためのスタンダードに改正すべきだということです。その結果、かなり努力をして、20犬種ぐらいだと思いますが、大幅なスタンダードの修正がなされました。

片や、私どもFCI（世界畜犬連盟；80数カ国が加盟する世界最大の国際組織）につきましても、350にも及ぶ犬のスタンダードがあるわけですが、それぞれのスタンダードは原産国がつくることになっております。イギリス原産種はブルドックを初め、かなりたくさんおりますけれども、こういった犬についてはその修正されたスタンダードを受け入れると同時に、さっき申し上げたドッグショーにおける犬の審査も、余り

特定の体の部位を誇張するような審査をしてはいけないという注意喚起をしております。犬の健全性に配慮した審査をして、健全な犬を上位に持ってくるような審査をしましょうと、こういった動きが最近あるわけでございます。少なくともただ純粋犬種を登録し、改良して血統書を発行するだけでは、我々の仕事はもう務まらないと、こういう時代になってきております。

そういう意味合いもあって、今回、座長を務めさせていただくことになった次第でなかろうかと思っております。本日は、この小冊子には麻布大学の太田先生の部分がございましたが、あいにく、先生はちょっと都合がどうしてもつかないということで、御欠席ということでありました。したがって、きょうは麻布大学の内山先生、それから東京農大の林先生、それからみもの木動物病院の村田先生、そして、スポンサーをやっただいておりますマースジャパンリミテッドの副社長の石山さん、この順番で話題提供をしていただきたいと思っております。どうか、よろしく願いいたします。

大体、30分ないし40分ぐらいでお話を切っただいて、残り1時間弱、皆さん方とのフリーディスカッション、質疑応答、こういった形式で進めたいと思っておりますので、どうか御協力のほどよろしくお願いをいたします。それでは、まず、内山先生からお願いいたします。

